

■蛙鳴祭での古典劇公演

獨協コース開始以来、毎年、蛙鳴祭でクラス劇の公演を行ってきました。本年度（2018年度）は11回目の演劇公演となります。

公演年	題目	作者
2008年	アンティゴネ	ソフォクレス
2009年	アンティゴネ	ソフォクレス
2010年	アンティゴネ	ソフォクレス
2011年	ジュリアス=シーザー	シェークスピア
2012年	マクベス	シェークスピア
2013年	王女メディア	エウリピデス
2014年	アウリスのイフゲニア	エウリピデス
2015年	エレクトラ	ソフォクレス
2016年	オイディプス王	ソフォクレス
2017年	平和	アリストファネス
2018年	ペルシア	アイスキュロス

劇の公演には、HRクラスの団結を深める点以外にも、様々な目的があります。例えば、身を持って古典劇を演じることが非常に良質な「歴史との対話」になることが挙げられます。また、上演にあたって優れた劇台本を分析・考察していく経験が、生徒たちそれぞれの論文作成に生きる点も挙げられます。さらには、役者として妥協なく心身を磨く経験が、論文作成への各生徒の覚悟を形成するうえでも効果的といえます。

ぜひ、9月15・16日の蛙鳴祭公演に足を運んでいただければと思います。

■2018年度 『ペルシア』

今年の蛙鳴祭では、アイスキュロス作『ペルシア』を上演します！

<あらすじ>

幕が開けば、そこは約2400年前のペルシアという華やぐ国。戦争の勝利を待ち望み、自信に満ちた表情の長老や女たち。しかしそこに、ひとつの不安が生まれ始める。そのたった一つの不安が徐々に国中を染めていき、その不安に呼び寄せられるかのように、伝令が戦争でペルシアが敗戦したことを伝える。途方に暮れた人々は、なんと、今は亡き先代の王、ダレイオスの亡霊を呼び出すことを決意する。蒸した体育館は瞬く間にひんやりとした異質な空間に変わり、背筋に流れる冷たい汗に悪寒を覚えるだろう。そして、腹の底に響くような亡霊ダレイオスの声が体育館を包む。しかし、ダレイオスの語ったことは、人々をさらなる絶望の淵へ立たせる。戦争から唯一帰還した現大王、クセルクセスは何を語るのか。救いのない絶望の先に何があるのか。実話を元にして作られた最古のギリシア劇が獨協埼玉の体育館によみがえる。